

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら東神奈川教室		
○保護者評価実施期間	6年 11月 1日		6年 11月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70	(回答者数) 61
○従業者評価実施期間	6年 11月 1日		6年 11月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 17
○事業者向け自己評価表作成日	7年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者のニーズに寄り添い、利用者ファーストの運営体制 ※就労支援の観点を大切にする	柔軟な送迎対応 保護者の意向に沿った教材の導入 偏食がある利用者に対する柔軟な対応 昼食対応(児童の弁当購入など) HUGシステムにおけるサービス提供記録の充実	柔軟な延長利用の仕組み作り 宿題対応の強化 食育プログラムの頻度の見直し
2	集団療育をベースに、個別療育の観点から個々の発達状況に応じたアプローチを尊重し、個々の成長を最優先することで、最終的に集団に合流を目標とした支援体制	専門職職員の評価と個別療育の実施 発達状況の近い利用者での小集団活動 個別の外出プログラムの実施 専門職が評価・立案する専門的支援の実施	評価バッテリーの導入 専門職の積極採用
3	利用児童の興味を引き出し、そこから支援を展開する支援体制	興味関心にあった玩具や教具の選定 苦手なことに前向きに取り組める環境設定	企業内の専門職同士の勉強会 教室内研修(症例検討)

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	カンファレンスや療育の準備に必要な時間の確保	事務業務にかかる時間が短縮できない 業務担当が適切でない	事務業務の簡素化やシステム導入による効率化 重複や不要な業務がないか業務の棚卸
2	全職員の児童に対する共通理解	出勤頻度のバラつきがある コミュニケーションツールによる情報共有が多い	対面によるMTGの頻度を上げ、密度の高い共有や、多角的な意見を募る機会の創出
3	発達障害に対する基本的な理解と、最新情報のキャッチアップ	ナレッジ共有がなされにくい 個人の評価を、最終的に支援計画に落とし込むことができていない	支援計画を中心とした支援体制の構築 ナレッジの蓄積と、その共有方法の見直し